⑵　外国為替資金特別会計（別表３参照）

外国為替資金の収支は、前年同期の270億円の支払超過から、4,938億円の受取超過となった。収入は、前年同期（３兆6,893億円）に比べ、5,876億円減少して３兆1,017億円となった。一方、支出は、前年同期（３兆7,164億円）に比べ、１兆1,084億円減少して２兆6,079億円となった。

⑶　その他の特別会計等

その他の特別会計等の収支のうち、主な項目についてみると次のとおりである。

保険の収支は、収入11兆5,467億円、支出16兆9,957億円、差引き５兆4,490億円の支払超過であって、前年同期（５兆9,235億円の支払超過）に比べ、4,745億円支払超過額が減少した。

3　国債等・国庫短期証券等

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成26年度第３・四半期			前年同期		
	発行（借入）	償還	差引き	発行（借入）	償還	差引き
国債等	359,574	208,559	151,015	360,046	173,643	186,404
国債（１年超）	348,528	199,232	149,296	350,546	170,361	180,185
借入金	11,046	9,327	1,719	9,500	3,282	6,218
国庫短期証券等	1,040,276	799,106	241,170	1,067,197	874,511	192,686
国庫短期証券	914,276	673,106	241,170	941,197	745,511	195,686
一時借入金	126,000	126,000	△ 0	126,000	129,000	△ 3,000

国債等及び国庫短期証券等の発行（借入）・償還状況は、上表のとおりである。

国債等の収支は、15兆1,015億円の受取超過であって、前年同期（18兆6,404億円の受取超過）に比べ、３兆5,389億円受取超過額が減少した。国債（１年超）の収支は、発行34兆8,528億円、償還19兆9,232億円、差引き14兆9,296億円の受取超過であった。借入金の収支は、借入１兆1,046億円、償還9,327億円、差引き1,719億円の受取超過であった。

国庫短期証券等の収支は、24兆1,170億円の受取超過であって、前年同期（19兆2,686億円の受取超過）に比べ、４兆8,484億円受取超過額が増加した。国庫短期証券の収支は、発行91兆4,276億円、償還67兆3,106億円、差引き24兆1,170億円の受取超過であった。一時借入金の収支は、借入12兆6,000億円、償還12兆6,000億円、差引き０億円の支払超過であった。

（参考）　実質収支

上で述べた財政資金対民間収支は、各会計等と民間との間における収入支出（窓口収支）のみをとらえたものであるが、各会計等の収支の実態をみるため、これに各会計等相互間の収支（国庫内振替収支）を加えた実質収支を示すと、次のとおりである。

△印は支払超過（単位　億円）

区分	窓口収支 (A)	国庫内振替収支 (B)	計（実質収支） (A)＋(B)
一般会計	△ 6,414	△ 86,127	△ 92,541
特別会計等	△ 79,867	258,384	178,517
財政投融資	4,815	△ 22,801	△ 17,986
外国為替資金	4,938	3,879	8,817
保険	△ 54,490	56,773	2,283
その他	△ 35,130	220,533	185,403
小計	△ 86,280	172,257	85,977
国債等	151,015	△ 10,128	140,886
国債（１年超）	149,296	△ 9,585	139,711
借入金	1,719	△ 544	1,175
国庫短期証券等	241,170	△ 162,129	79,041
国庫短期証券	241,170	△ 168,999	72,172
一時借入金	△ 0	6,870	6,869
合計	305,904	—	305,904
調整項目	△ 275	—	△ 275
総計	305,630	—	305,630

第２　国庫対日銀収支（別表４及び別表６参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成26年度第３・四半期	前年同期
国庫短期証券の発行・償還（△）	△ 236,748	△ 202,567
特別会計の債券売・買（△）	92,000	11,557
財政投融資	42,290	47,790
国債整理基金	49,710	△ 36,233
その他	△ 72,815	△ 65,335
計	△ 217,563	△ 256,345

期中における国庫対日銀収支（＊５）は、上表のとおり、21兆7,563億円の支払超過であって、前年同期（25兆6,345億円の支払超過）に比べ、３兆8,782億円支払超過額が減少した。

その内容についてみると次のとおりである。

1　国庫短期証券の発行・償還

国庫短期証券の発行・償還による日本銀行との間の資金調達・資金返済状況をみると、資金調達３兆6,498億円、資金返済27兆3,247億円、差引き23兆6,748億円の支払超過であって、前年同期（20兆2,567億円の支払超過）に比べ、３兆4,181億円支払超過額が増加した。

2　特別会計の債券売・買

特別会計と日本銀行との間の債券売買の状況をみると、９兆2,000億円の受取超過であって、前年同期（１兆1,557億円の受取超過）に比べ、８兆443億円受取超過額が増加した。財政投融資は、４兆2,290億円の受取超過であって、前年同期（４兆7,790億円の受取超過）に比べ、5,500億円受取超過額が減少した。国債整理基金は、４兆9,710億円の受取超過であって、前年同期の３兆6,233億円の支払超過から受取超過となった。

3　その他

国庫と日本銀行との間の経常収支は、７兆2,815億円の支払超過であって、前年同期（６兆5,335億円の支払超過）に比べ、7,480億円支払超過額が増加した。

第３　政府預金（別表５及び別表６参照）

財政資金対民間収支（30兆5,630億円の受取超過）から政府預金（＊６）の増減に関係のない調整項目（275億円の支払超過）を除いた収支は、30兆5,904億円の受取超過であった。また、国庫対日銀収支は、21兆7,563億円の支払超過であった。その結果、政府預金の期末残高は、前期末（１兆2,956億円）に比べ、８兆8,341億円増加して10兆1,297億円となった。